

広島(8月6日)・長崎(8月9日) 原子爆弾なぜ続けて2発?

皆様へ、

これは 私は、核物理を勉強した人間として、これから、この2発を3日挟んで、続けた投下した理由を書きます。

ヒロシマ型は:天然ウランからウラン 235 を濃縮した「爆薬」です。戦前の米国でも大不況があり、ある州で大きなダム水力発電所を建造した。この電力でウラン濃縮をした。これを使って1944-5年に原爆が完成した。

一方、ナガサキ型は:まず大きな原子炉を建設し、その強力な熱中性子を天然ウランに照射し、その主成分ウラン 238 をプルトニウム(Pu239)に変換した。ウランとプルトニウムは元素が異なるので、化学的に分離できる。つまり原理的には100%のPu239の「爆薬」ができた。

問題は、

- 1) ヒロシマ型とナガサキ型は米国内の別々の研究所で開発された。(米国式の競争社会)
- 2) それぞれに、主に被爆者の被害が大きく異なる。
- 3) そういう理由で両方の研究所とも被爆者の被害(医学的、建築土木技術など)のデータがほしかった。
- 4) ところが、米軍の上層部の中では、原爆1発投下で日本は非常に短時間のうちに(1945年8月中旬に)降伏するとほとんど確信していた。(そういう新聞記事が手元にあるが今回は省略します)。だから3日後。

日本でも当時原子核物理の知識のレベルは高かった。広島への原爆投下後、日本軍が理化学研究所の最高の研究者を広島へ急ぎ移動させ、被爆の測定をさせている。(記録の本がある)。

今日は広島にU235を使った原爆が落とされた日。冥福を祈ります。

(化工会) 新井栄一